



## 昼食・昼休み交流の会話や遊びでつながる

6月から7月にかけて、E級と交流学級の生徒が昼食・昼休み交流を行いました。一緒にお弁当を食べながら、自分の好きなことや学校の出来事等を話し、交流を深めていました。また、昼休み時間に一緒に卓球、ゲーム、さをり織り、ビーズ作り等をしながら楽しく遊ぶ姿も見られました。E級生は、いつも同じ友だちと過ごすことが多いので、最初は緊張した様子でしたが、会話をしたり、遊んだりするうちに表情も柔らかくなっていきました。交流学級の生徒も、勉強のことや部活動のこと等を話しながら、楽しい時間を過ごしていました。

こうした交流活動に向けて、E級では生活単元学習や自立活動の時間を使って、様々な準備を行います。例えば、自己紹介の練習をしたり、自分の好きなことや得意なことから会話を広げたりする練習を行います。また、会話を楽しむためには、相手の話をしっかり聞くことも大切です。さらに、表情や声の大きさ等、様々な話し方・聞き方のスキルも求められます。他にも、昼休みに一緒に遊ぶためには、相手を誘うスキルも必要です。そこで、適切な表情や言葉で相手を誘う練習を行ったり、忙しくて断られた時の気持ちの切り替え方を練習したりしました。こうした一つ一つのスキルは、将来の社会生活を営む上でも必要なスキルとなります。しかし、いくらE級のなかだけで練習しても実際の行動にはつながりません。やはり交流学級の仲間のなかでの成功体験が不可欠です。「一緒に遊ぼう。」「いいよ。」「また遊ぼうね。」「オッケー。」こうした些細な言葉のやりとりが、E級生の大きな自信に、そしてE級と交流学級の生徒との絆につながっています。



## 「やさしさ」というプライドがつなぐ・つながりつづける

以前勤務していた中学校の特別支援学級に重いハンディのあるTさんがいました。食べるのが大好きで、給食の時間はいつも笑顔。食後に一緒に介護用のトイレに行き、おいしかったものを報告し合うのが日課でした。

そんなTさんには、小学校からいつも昼休みを一緒に過ごす友だちがいました。その友だちは…昼前に学校に来て、給食と昼休みを学校で過ごす。昼休みが終わると茶色い髪をなびかせて帰っていく。そんな生徒でした。ただ小学校の時から、Tさんといるときはいつも穏やかな笑顔。「担任の先生から、俺のいいところは『Tさんにやさしくできるところ』って言われた。」「自分はやさしい人」という誇りが、学校での彼を支えていました。

そんなある日。いつものように教室に来た茶色い髪の彼は、とても荒れた表情でした。「後輩にバカにされた。許せない。」今にも飛び出していこうとする彼をなんとか説得していると、いつものようにTさんが「先生、トイレ。」と呼びに来ました。困って他の先生を呼びに行こうとすると、さっきまで興奮していた彼が言いました。「先生、トイレって言うてるよ。俺、戻ってくるまで待ってるから。」大急ぎでトイレを済ませて戻ると、いつもの優しい顔になった彼がそこにいました。その後はいつものようにTさんと遊び、そして家に帰っていきました。もしかするとTさんとの出会いがなければ、彼の学校生活は全く違ったものになっていたかもしれません。

それから5年後の成人式。中学生の時のように式が終わるころに会場に入ってきた彼は、金髪に派手な袴姿。唯一参加できたのは最後の記念撮影。一番前に保護者と座っていたTさんを見つけると、すぐに駆け寄り、整列するステージへの階段へTさんの手をしっかり握って登っていきました。式が終わって、介助のお礼を伝えると、「当たり前じゃん。だって俺のいいところは、やさしいところ。」そう言って、さっと家に帰っていきました。